

## 花火に驚いて電線衝突死したオオハクチョウ

呉地正行

日本雁を保護する会

宮城県若柳町（現在は栗原市若柳）の迫川には毎年多数のハクチョウ類（コハクチョウとオオハクチョウ）が渡来越冬し、その個体数はほぼ毎年全国ベスト10に入っています。因みにこの報告で話題とする花火大会当日の2005年1月14日の朝に行われた宮城県のガンカモ科鳥類の生息調査結果でも、ハクチョウ類1127羽が観察されており、これは県内の渡来地の中では最大でした。

ハクチョウ類の渡来地となっている迫川には、上流に第一大橋、その約1km下流に第二大橋があり、その間が主な生息地となっていて、1000羽以上のハクチョウ類のねぐらとなっています。

2005年1月14日夕方から、第二大橋の下流（南東方向）3.8kmの隣町・石越町（現在は登米市石越町）で恒例の花火大会が行われ、多数の花火が打ち上げられました。この日の20時頃、迫川沿いの洋品店（ダイワ）のシャッター前で死亡しているオオハクチョウ成鳥1羽が発見されました。地元の人からの連絡で現地へ行きましたが、一見外傷はなく、翼も骨折していないようで、翼を半開きの状態で背面を上にし、首は緩やかに半円状に曲げた状態で、付近に羽毛が少量四散していました。この死体を自宅へ持ち帰り、再度外傷の有無を良く調べると、右翼の初列風切羽の外側の4枚のほぼ中央部の羽弁が欠落（衝突の衝撃で）し、翼下面には薄らと羽が焦げた痕があり、翼角に直径3mm程度の焼傷がありました。上空には配電線が通っていますので、この電線に接触し感電により死亡したものと思われまます。

なお、このオオハクチョウの右足に”150-0663”と刻まれた金属リング（日本の環境省リング）が着いていました。山階鳥類研究所に問い合わせたところ、2001年12月19日に、新潟県北蒲原郡水原町の瓢湖（37.50N, 139.14E）で、本間隆平さんにより成鳥（性別不明）として標識されたオオハクチョウであることがわかりました。

石越町での冬の花火大会は、石越町商工会の主催で1989年から行われていますが、毎年花火の打ち上げと共に、迫川をねぐらとしているハクチョウ類の大半が驚いて飛び立ち、近くの道路や橋、空き地などに不時着する事故が起きていました。特に大型の三尺玉を打ち上げた1996年には、2000羽のハクチョウが驚いて一斉に飛び立ち、橋桁に激突して嘴が基部から折れて死亡したり、近くの民家の敷地内で死体で発見されたりしました。このことが契機となり、三尺玉の打ち上げは中止となりました。その

後、橋や道路、空き地へハクチョウが不時着する事故は毎年のようにありましたが、死亡事故という最悪のケースはおきていませんでした。しかし、去年は、橋に不時着したコハクチョウが車に轢かれて死亡するという事故がおき、今年には花火(二尺玉)に驚いて飛び立ったハクチョウの内、1羽のオオハクチョウが電線衝突し感電死する事故が起きてしまいました。このことは地元の新報である河北新報などで報道されました。

その後、石巻専修大学理工学部基礎理学科の土屋剛さんにこの死亡個体を解剖していただいたところ、次のことが判明しました。

胸腔、腹腔に出血はなく内臓の破裂は認められませんでした。また、右烏口骨の複雑骨折が認められるものの骨折部の出血は少量でした。これらのことから推定すると感電、心停止、落下による右烏口骨の複雑骨折が生じたものと考えられます。なお、このオオハクチョウは雄で、精巣は非常に小さく、萎縮しておりました。計測した結果は、全長141 cm、翼開長 201 cm、体重は9300 gでした。

この事故を契機に、今後このような事故を起こさないための対策を関係者の皆さんの協力を得て行いたいと思っています。その後、石越町の関係者が来宅し今後のことについて話し合いを行いました。

他の地域の例としては、中海や陸前高田市では冬の花火大会がハクチョウに対する影響の配慮から花火大会を中止しています。また、蕪栗沼(宮城県・田尻町)に近い瀬峰町(現在は栗原市瀬峰)でも冬の花火が蕪栗沼のガンに対して大きな影響を与えることから、冬の花火大会の開催時期を変更しています。このほかにも、以前新聞記事で長野県でも同様な事例(ハクチョウへの影響)が紹介されていたものを読んだ記憶があります。

石越町の花火は迫川のハクチョウだけでなく、伊豆沼(伊豆沼までの距離も5 kmくらい)のガン類へも重大な影響を与えることが確認されています。7~8年前に行われた影響調査では、花火大会の開始を告げる最初の花火(音だけの花火;石越町関係者に確認)を打ち上げた直後に全てのガン類が飛び立ち、花火を打ち上げている間は飛び回っていたという報告話を受けています。

このような事故の再発を防ぐために、大型の水鳥の生息地の近く(具体的な距離も目安として示す必要があるとおもいます)では冬の花火大会は行わないという社会的な合意形成を作り上げることが必要だと思えます。そのためにはできるだけ多くの事例を集約することが必要です。関連する情報をお持ちの方は、情報提供をお願いします。